

平成 25 年度

# 十七字のふれあい事業

## 入賞作品集

～十七字 つなげる想い つなぐ夢～



主催 福島県教育委員会

## 最優秀賞



七のだん むずかしかった 夏休み

(田村 晴菜 いわき市立久之浜第二小学校2年)

孫の九九 響き残して 夏過ぎる

(田村 多喜子)

夏休み ギョウザで習う 母の味

(先崎 千紘 福島市立福島第二小学校6年)

娘との 会話ではずむ 指の先

(先崎 啓子)

母の背を 見下ろす側に 早変わり

(平沢 達広 相馬市立向陽中学校1年)

「それ持つよ」 背丈に勝る 思いやり

(平沢 久子)

うちトマト 祖母の笑顔が つまってる

(鈴木 雄大 西郷村立川谷中学校1年)

熟トマト 孫のほった 思い出す

(鈴木 栄子)

口応え 気になる親の 眉間じわ

(大塩 日花 白河市立五箇中学校2年)

成長に 増える心の 笑いじわ

(大塩 誠一)



## 優秀賞



ながれぼし じいじのこしを なおしてね

(吉田 華 岩代幼稚園年長)

あら不思議 今日は何だか 痛くない

(吉田 清)

ママ見てて 私があやすと 泣きやんだ

(黒川 菜々美 石川町立野木沢小学校4年)

泣き虫さん 気付けば立派な 姉さんに

(黒川 恵美子)

まかせてね 今日のお昼は オムライス

(野崎 雪乃 矢吹町立中畑小学校5年)

孫シェフの 作ったランチは 午後3時

(野崎 禮子)

じいちゃんの 補聴器がわり ぼくの声

(戸川 大文 天栄村立広戸小学校6年)

孫の声 優しく響く 我が耳に

(上原 八郎)

声ださず 心をこめて かけてみた

(目黒 勇也 福島県立新地高等学校2年)

うたたねし ふわっと肩に 毛布くる

(目黒 文江)





## 佳作

- |  |   |
|--|---|
| おかあさん こんやはこのほん よみたいな<br>(大瀧 愛 須賀川市立第一小学校1年)    | 幼子が 顔寄せ合って 読みきかせ<br>(大瀧 和子)               |
| おこめとき つかれたママへ プレゼント<br>(石田 桜菜 猪苗代町立長瀬小学校1年)    | ありがとう 冷えた娘の手を 温める<br>(石田 真季)              |
| にいちゃんと ぷうるにもぐって にらめっこ<br>(やしろ はく いわき市立錦東小学校1年) | あっぷっぷ 笑ったひょうしに 鼻に水<br>(矢代 風 いわき市立錦東小学校4年) |
| にわキャンプ ねぶくろくるまり 大はしゃぎ<br>(佐藤 丞 南会津町立伊南小学校2年)   | 超近場 許せ息子よ 仕事あり<br>(佐藤 隆士)                 |
| ママの手を にぎるとねれる くらいよる<br>(田中 澪奈 南相馬市立石神第二小学校2年)  | いつの日か この手をはなす ときがくる<br>(田中 広美)            |
| 夏休み セミよりうるさい 母の声<br>(梅津 優那 福島市立吉井田小学校3年)       | 頑張れ!と 励ますつもりが 怒鳴り声<br>(梅津 香織)             |
| すずしげに 流しそうめん 泳いでる<br>(菅野 陽太 矢吹町立矢吹小学校4年)       | 青竹で 孫と一緒に 樋作り<br>(菅野 劭)                   |
| 手をつなぐ 恥ずかしいけど 嬉しいな<br>(渡辺 真依 新地町立福田小学校6年)      | 帰り道 今年までかと 手を伸ばす<br>(渡辺 義広)               |
| 夏休み 宿題やらずに 最終日<br>(佐々木 ひな 泉崎村立泉崎中学校2年)         | 雷が 子供に向けて 大発生<br>(佐々木 牧子)                 |
| 高張の 重さが語る 区の伝統<br>(菊池 奏多 矢祭町立矢祭中学校3年)          | 祭りの夜 高張持つ手の たくましき<br>(菊池 邦子)              |



### [ 審査員 ]

- |       |            |
|-------|------------|
| 安部 光夫 | (福島県体育協会)  |
| 山内 正之 | (教育庁教育総務課) |
| 増子 春夫 | (教育庁義務教育課) |

## 審査員講評

今年度は、36,055組、72,110人というたくさんの応募が寄せられました。どの作品も全体的にレベルが高く、甲乙をつけがたいものばかりでした。日常生活の何気ないふれあいを題材として、作者同士の信頼関係や強い絆などが伝わる作品が多かったと思います。

特に、祖父母、両親と本人、兄と弟（姉と妹）といった組み合わせなど、家族を中心に取り上げており、普段はなかなか言葉にして言えないような、互いを思いやる温かい心の交流であったり、日常における共通の話題について共感できたりする作品が多いのが印象的です。また、ひとつひとつの言葉が洗練されており、各作品の情景や作者の心情を的確に表現している作品がたくさん見られました。2人でそれぞれにつくったものでありながら、意図的に対となっている表現や言葉など効果的な技法を活用する工夫があり、全体的にリズムの良い作品に仕上がっていました。わずか17文字×2人で34文字の世界が作りだす日本語の奥深さはもちろん、言葉の持つ力が感動させるものとなることを改めて実感することができました。

この十七字が作りだす世界観の中で、子どもたち自身が自分を見つめ、感じたことを表現していることに対し、家族が温かな視線で見つめ、認め、励ましているといった関わり合いに感動いたしました。この作品づくりをとおして、家族の絆がさらに深まっていくことを期待します。

[ 審査員 一同 ]

平成25年度「十七字のふれあい事業」

## 入賞作品集

発行 福島県教育委員会

問合せ先 福島県教育庁社会教育課

〒960-8688 福島市杉妻町2-16

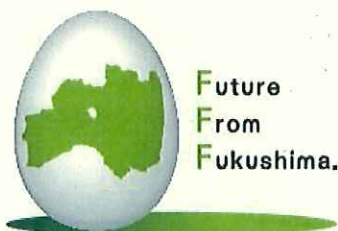
電話：024-521-7799

FAX：024-521-7974

ホームページアドレス

: <http://www.syakai.fks.ed.jp/>

発行日 平成26年1月6日



ふくしまから  
はじめよう。